

めぐみイエス・キリスト教会

2024年3月3日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第697号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」p. 150

【交読文】 No.40 詩篇第126篇 p. 911

【賛美Ⅱ】 新聖歌127「墓の中に」 p. 453

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「復活の日の朝」

【聖書朗読】 ルカの福音書4章14節～16節(新約p. 115真中)

【礼拝説教】 《ガリラヤに戻る》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 (ルカの福音書4章14節～16節)

4:14 イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が周辺一帯に広まった。

4:15 イエスは彼らの会堂で教え、すべての人に称賛された。

4:16 それからイエスはお自分が育ったナザレに行き、いつもしている通り安息日に会堂に入り、朗読しようとして立たれた。

●ポイント1.「ガリラヤに戻られた」場所とは？

※ヨハネの福音書2章1節～12節「最初のしるしとして」 (新約p.178)

2:1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があり、そこにイエスの母がいた。

2:2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれていた。

2:3 ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。

2:4 すると、イエスは母に言われた。「女の方、あなたは私と何の関係がありますか。私の時はまだ来ていません。」

2:5 母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

2:6 そこにはユダヤ人のきよめのしきたりによって石の水がめが六つ置いてあった。それぞれ二あるいは三メートル入りのものであった。

2:7 イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいになさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

2:8 イエスは彼らに言われた。「さあ、それを汲んで、宴会の世話役のところに持って行きなさい。」彼らは持って行った。

2:9 宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっていたその水を味見した。汲んだ給仕の者たちはそれがどこから来たのかを知っていたが、世話役は知らなかった。それで、花婿を呼んで、

2:10 こう言った。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回ったところに悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」

2:11 イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

2:12 その後イエスは、母と弟たち、そして弟子たちとともにカペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在された。

●ポイント2. 主は時を支配するお方

※伝道者の書3章1節および11節「ソロモンの言葉」(旧約p.1141上段)

●ポイント3. 主が与えて下さる物は、常に最高の物

※ローマ人への手紙8章28節「使徒パウロの勧め」(新約p.310下段)

8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。

◎先週の礼拝メッセージ【悪魔の試み(そのⅢ)】

《荒野における悪魔の最後の試みについて共に考えてみましょう。
「悪魔は、イエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせた」と言うことですが、実際に移動させたのではなく、その幻を見せたのだと思われます。この最後の誘惑も、「神の子なら、その力を使って、自分がメシアであることを人々に見せよ。」と言うことなのです。

主イエスは、神の御子であります。よって、主が望むならば、何時でも、神様としての権威を使うことができました。しかし、私たちと同じように「まことの人」であった主イエス様は、ご自分の為には、その力と権威を用いられなかったのです。さて、悪魔は言いました。「あなたが神の子なら、ここから下に身を投げなさい。『神は、あなたのために御使いたちに命じて、あなたを守られる。彼らは、その両手にあなたをのせ、あなたの足が石に打ち当たらないようにする』と書いてあるから。」

悪魔は、今度はみ言葉を用いて、誘惑して来ました。悪魔もみ言葉を良く知っているのです。これは詩篇91篇からの引用です。

それに対して、同じく、主イエスはみ言葉を用いて、答えられます。「『あなたの神である主を試みてはならない』と言われている。」と。

これは、申命記6章からの引用です。

それでは、「試みる」と、「祈り求める」との違いは何なのでしょうか。それは、主語にその理由と原因があるのです。私たちは、自己中心です。「試みる」とは、私たち自身が主語であり主人なのです。しかし「祈り求める」とは、イエス様が主であることを、信じ従う者に与えられている特権なのです。よって主語は、主イエス様なのです。

私たちは、主イエス様を信じる者であり、そのお方を主として、聞き従う者です。それゆえに、父なる神様は祈りに答えて下さるのです。》

お知らせ

※次回は3月10日(日)となり、通常通り午前10時から行ないます。今年、3月31日(日)がイースター礼拝です。食事会を行ないます。